

# 中核的な経営体による周年出荷ネギ産地の育成

県南農林事務所 つくば地域農業改良普及センター

つくば市は周年供給のネギ産地として市場から評価されてきましたが、近年、生産者の高齢化と都市化が進展し、作付面積及び出荷量が減少しています。ネギは比較的安定した収益が見込める品目であることから、作付面積を拡大するためJAつくば市ねぎ部会及びネギプロジェクトと連携しながら、産地を担う中核的な経営体と新規ネギ生産者の育成による産地の活性化に取り組みました。

## 機械化一貫体系による規模拡大

平成 27 年から機械化一貫体系実証検討会を開催（写真 1）し、機械導入及び収益性の高い作型導入などについて検討して経営発展モデルを作成しました。

規模拡大や機械化の意向を持つ生産者に対し、産地を担う中核的な経営体に発展してもらおうと、重点的に機械化を推進した結果、全自動収穫機や高効率調製機などの導入が増え、規模拡大が図られました。



写真 1 ネギ機械化一貫体系の実証検討会



写真 2 新規ネギ生産者を対象とした栽培講習会

## 新規ネギ生産者の育成

JAつくば市ネギプロジェクトでは、平成 26 年から冬ネギの育苗・調製・出荷作業を受託し、新規ネギ生産者の確保に取り組んでいます。

当普及センターでは、栽培講習会（写真 2）や圃場巡回指導で栽培技術を重点的に指導し、参加者は開始 2 年で 13 戸増加しました。栽培技術を習得し、栽培が容易な冬ネギだけでなく、周年出荷を目指し夏ネギなどの作型にも取り組む生産者も出てきています。

## 独立を目指す研修生の受入

JAつくば市ねぎ部会では、部会員が減少するなか、産地維持のために取り組むべき課題を検討してきました。平成 28 年には新規生産者の育成に取り組むことが合意され、ネギ経営で独立就農を目指す研修生を募集し始めました（図）。

当普及センターでは、研修生募集のための PR 活動や受入農家の支援など、研修受入体制を整備していきます。



図 研修生募集のための PR チラシ